

MRS10

パワード・スタジオ・サブウーファー

オーナーズ・マニュアル

Ver. 1.0



株式会社サウンドハウス

〒286-0825 千葉県成田市新泉14-3 TEL: 0476-89-1111 FAX: 0476-89-2222
<https://www.soundhouse.co.jp> E-mail: shop@soundhouse.co.jp

安全上の注意

- この製品を使用する前に本書をよくお読みください
- 本書は必要などきに見返せるように大切に保管してください
- すべての警告と指示に必ず従って、正しくご使用ください
- 水のかかる場所や湿気の多い場所では使用しないでください
- お手入れやクリーニングは乾いた布で行ってください
- 製品の通気口をふさがないように設置してください
- 十分な放熱を行うために、本機の周囲には最低5cmのスペースを空けてください
- 新聞紙やテーブルクロス、カーテンなどで、通気口をふさがないように注意してください
- ヒーターやストーブ、アンプなどの熱を発生する機器の近くには設置しないでください
- ろうそくなどの裸火を、本機の上に置かないでください
- 電源プラグやケーブルを踏んだり挟んだりしないように注意してください。
- メーカーが指定した付属品やアクセサリーのみを使用してください
- カート等を使用して移動する場合は、落下や転倒による怪我に注意してください
- 雷が接近している場合や、長期間本製品を使用しない場合は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください
- 修理や点検は、必ず専門の技術者に依頼してください。
- 以下のような場合には製品の修理が必要です
 - ・電源コードやプラグが損傷している
 - ・液体がこぼれた、異物が装置内に落ち込んだ
 - ・装置が雨に濡れた、または湿気の多い環境で使用された
 - ・正常に動作しない
 - ・落下などにより損傷や破損がある
- 花瓶やグラスなど液体を含む容器は、本製品の上に置かないでください
- コンセントや電源コードを無理に曲げたり、重い物を載せたりしないでください
- 安全のため、必ずアース端子付きのコンセントに接続してください



注意

感電の危険があるため、カバーを取り外さないでください。
修理は必ず専門の技術者にご依頼ください。

- 本機の電源スイッチは背面パネルにあります。必要などきにすぐ操作できるように周辺のスペースを十分確保して設置してください。
- 電源プラグは電源遮断装置として機能します。非常時などにすぐ抜けるよう、プラグ周辺には十分なスペースを確保してください。
- 本機は、0～40℃の室温環境で使用してください。
- 大音量で使用しないでください。聴覚障害を引き起こす可能性があります。また、音量にかかわらず長時間聴き続けると耳に負担がかかり、聴力に悪影響を及ぼす可能性があります。

※本製品を廃棄する際は、お住まいの地域で定められたルールに従って処分してください

アイコンの説明



特に重要、あるいは独自の情報を示す際に使われています。手のひらアイコンにて示される領域には、特に注意を払うことをおすすめします。



このアイコンは、シリーズの使用に関連する特定の機能などを説明しています。

MRS10の特徴

- スタジオに最適な、パワフルで深い低域を実現
- 低音域を正確かつレスポンスよく再現するように設計
 - ・120W Class Dアンプ出力
 - ・10インチ・ガラスアラミド複合ウーファー搭載
- シェルフポート構造により、迫力のある深い低域を実現
- XLRとTRS入力を備え、さまざまな機器に接続可能
- XLRおよびTRS出力を使用してメインスピーカーへ接続可能
- クロスオーバー周波数を40 Hz～180 Hzの間で調整可能
- 極性切り替えスイッチ（0° / 180°）を搭載
- 付属のフットスイッチから、サブウーファーを一時的にミュートし、モニタースピーカーをフルレンジ再生に戻せる
- どんなスタジオにも馴染む洗練されたデザイン
- 高い耐久性を持つ高品質なMDF製キャビネット
- 不要な共振を最小限に抑える振動吸収ゴム脚
- メインスピーカーを中高域専用にし、パフォーマンスを最大化

はじめに

この度は、MRS10をご購入いただき、誠にありがとうございます。MRS10は、ダイナミックで正確な低域を理想的なバランスで加えるよう設計されており、不自然なブーミーさを生むことなく、スタジオでのモニタリング体験を大幅に向上させます。低域の特性をスタジオに合わせて細かく調整できる可変クロスオーバーや、位相を常に正しく保つ極性切り替えスイッチなど、ミックスを最適化する機能も充実。さらに、フットスイッチによるバイパス機能を使えば、ワンタッチでMRS10をミュートし、接続されたモニタースピーカーを一時的にフルレンジに戻すことが可能です。しっかりと低域を再現したミックスを作りたい方にとって、MRS10は理想的なサブウーファーです。

開発の背景

私たちは約20年にわたり、スタジオモニターやサブウーファーの設計を続けてきました。そして今、音楽を愛する優れたエンジニアチームが、サブウーファーを新たに作りました。音楽ファンはもちろん、ポストプロダクション・スタジオにも向け、MRS10パワード・スタジオ・サブウーファーは、サウンドを再調整し、機能を一新。現在のニーズに応える、驚くほどクリアで深みのあるサウンドを提供します。

すべては音楽のために

MRS10パワード・スタジオ・サブウーファーの設計は、理論だけでなくあらゆるジャンルの音楽をじっくり聴くことからスタートしました。最適化された電子回路から、パフォーマンスに合わせてマッチングされたアンプとウーファーに至るまで、MRS10は、音楽の表現力を最大限引き出すために設計されています。

音の世界をより楽しむための設計

音楽本来のキャラクターを引き出す——それが、プロフェッショナルなスタジオモニターやサブウーファーを選ぶ最大の理由です。MRS10パワード・スタジオ・サブウーファーは、その体験を高めるための設計が随所に盛り込まれています。MRS10専用に設計されたポートによるパンチ感と低域の再生。そして音を引き締める吸音材を内蔵した堅牢なキャビネットにより、自然で豊かなローエンドを余すことなく引き出します。

用途に応じて多彩に活躍

スタジオの形状や音響環境は1つひとつ異なります。そのため、柔軟な接続方式と音響をコントロールする機能が必要です。

MRS10スタジオ・サブウーファーをシステムに追加すれば、リスニング環境はさらに向上します。ヒップホップやダンスミュージックに欠かせない、胸に響くような力強い低域を再現するだけでなく、メインスピーカーが中高域の再生に集中できるようになり、システム全体のパフォーマンスが最適化します。

接続端子は、XLRとTRSフォンの2種類を備え、さまざまな用途に対応可能。さらに可変クロスオーバーを搭載しており、スタジオに合わせて低域のバランスを細かく調整できます。

優れた柔軟性と高いパフォーマンスを兼ね備えた、プロ仕様のモニタリングシステムがスタジオでの音楽制作をより高いレベルへと導きます。

さまざまな活用例

ホームレコーディング／プロジェクトスタジオ

ソロアーティストや小規模バンド、DJによる音楽制作、ポストプロダクションの編集／ミックス、録音、編集、ミックスダウン、マスタリングなど、スピーチ系から本格的な音楽制作まで幅広く対応。

放送局／スタジオ

ラジオやテレビなどの音声／映像コンテンツのライブ配信・放送。ポッドキャストやストリーミングに特化した制作／ポストプロダクション、ナレーション収録にも

映像ポストプロダクション

CM制作、映画、ネット配信など、小規模映像制作の編集に

ホームシアターやその他メディア

音楽や映画の再生、ゲーム用サウンドシステム、イベントやパーティー向けの音響システムにも活用可能

クイック・スタートガイド

1. サブウーファーの電源を入れる前に、本体背面の入力レベルコントロールのつまみを左に回しきって音量を最小にしてください。
2. 背面パネルの電源スイッチがオフになっていることを確認します。これにより、ケーブルを接続したときに発生する大きなノイズを防ぐことができます。
3. ミキサー、オーディオI/O、またはその他の信号ソースからのL/Rラインレベル信号を、背面の入力端子（XLRまたはTRSフォン）に接続します。
4. 背面の出力端子（XLRまたはTRSフォン）からのラインレベル信号を、スタジオモニターの入力端子に接続します。
5. 付属の電源コードをサブウーファー背面のソケットに接続し、もう一方の端をコンセントに差し込みます。この際、電源ソケット付近に記載されている電圧仕様に合ったコンセントをご使用ください。
6. 信号ソース（MP3プレーヤー、CDプレーヤー、DAW、ストリーミングデバイス、ターンテーブルなど）を起動します。このとき、ミキサーまたはプリアンプのマスターボリュームは下げたままにしておいてください。
7. MRS10の電源スイッチをオンにします。
8. サブウーファー背面の入力レベルコントロールをゆっくりと12時（ユニティゲイン）の位置まで上げます。
9. ミキサーまたはプリアンプのマスターボリュームを、聴きやすい音量になるように調整してください。
10. サブウーファーの出力レベルや、クロスオーバーの設定を、好みに応じて調整してください。



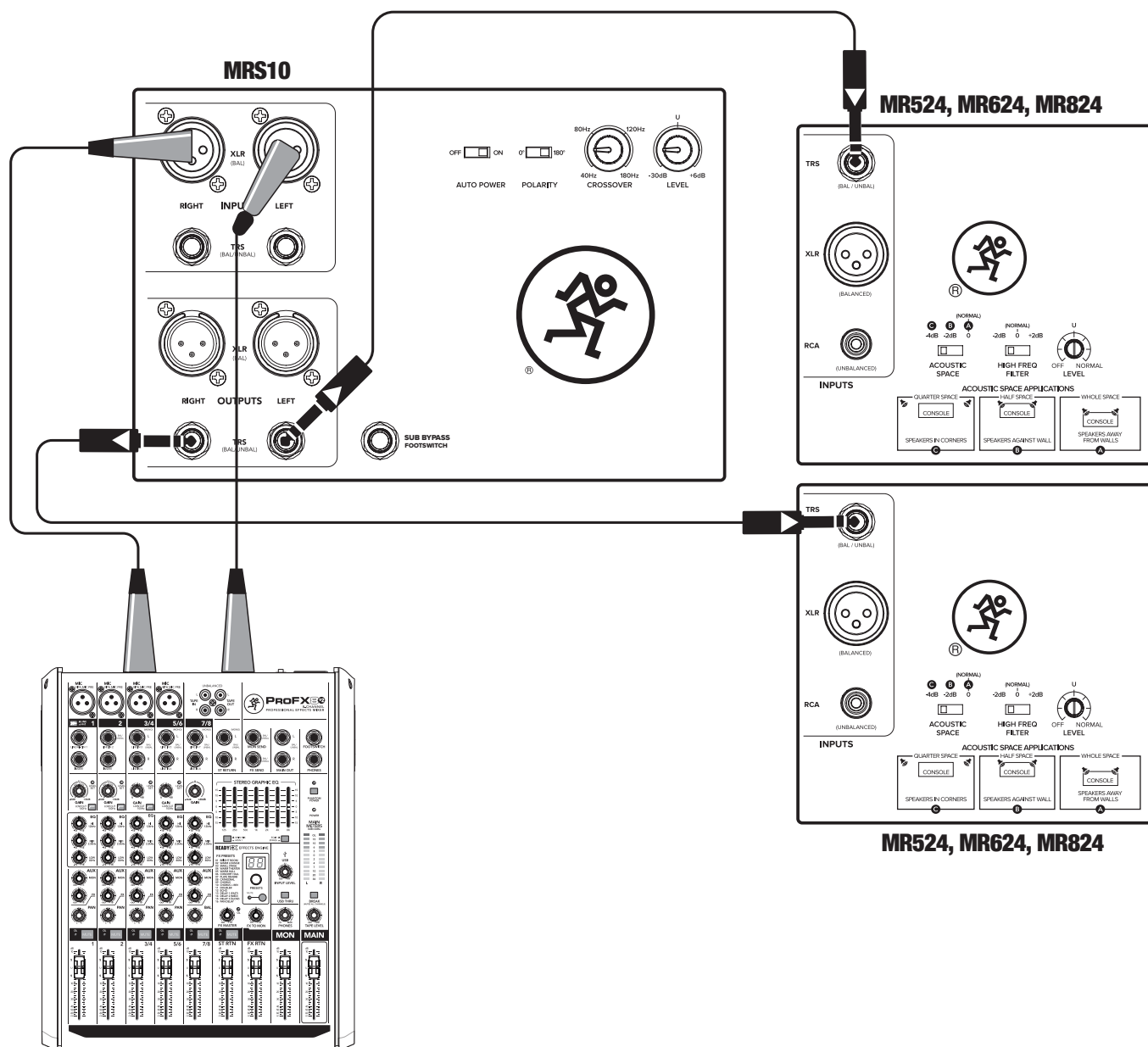
低域特性とコントロールルームに関する重要な事項

MRS10は、低域再生に適した環境でこそ、その性能を最大限発揮します。ただし、部屋の形状や広さ、設置場所などの条件によっては、本来の低域が打ち消されたり、特定の周波数が不自然に強調されたりすることがあります。その結果、低域再生のバランスが崩れ、パフォーマンスが低下する可能性があります。

設置環境を最適化することで、MRS10が持つ豊かで正確な低域再生能力を最大限に引き出すことができます。

その他の注意

- 大音量で長時間音楽を聴くと難聴の原因になる可能性があります。
- 機材の電源を切る際は、最初にMRS10スタジオ・サブウーファーの電源を切ってください。これにより、他の機器から発生する突発的なノイズのリスクを軽減できます。
- 電源を入れるときはサブウーファーを最後にしてください。
- 梱包箱はなるべく捨てずに保管しておいてください。製品を移動・保管・修理に出す際に必要になる場合があります。

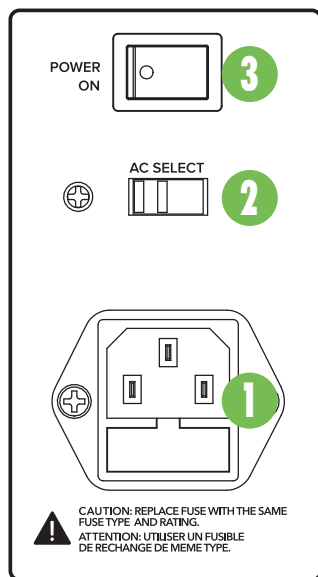


MRS10の接続はとても簡単です。ここでは、一般的なセットアップを簡単にご紹介します。この例では、任意の音源（ミキサーの入力に接続される機器）を使います。※MRS10は、スマートフォンやMP3プレーヤーなどの音源を、直接入力端子に接続することも可能です。まず、ミキサーのメインL/R出力が

ら、バランス接続のXLRケーブルを使ってMRS10のL/R入力に接続します。次に、MRS10のL/R出力から、バランス接続のTRSフォンケーブルを使って、MRシリーズ・スタジオモニターの入力端子に接続します。これで接続完了しました。あとは音源を再生するだけです。

リアパネルの機能

サブウーファーの設置位置や部屋の環境に合わせて、スピーカーの周波数特性を調整する場所です。



① 電源接続とヒューズ

電源コードをIECソケットにしっかりと接続し、もう一方の端を通電しているコンセントに差し込みます。

コンセントの電圧が、電源ソケット下に表示されている定格電圧と一致しているのを必ず確認してください。



プラグのアースピン(接地ピン)を外すのは危険です。絶対に行わないでください。

ヒューズは、電源ソケット下部のヒューズカバーの裏側にあります。ヒューズの交換については、「トラブルシューティング」を参照ください。

② 電圧切替スイッチ

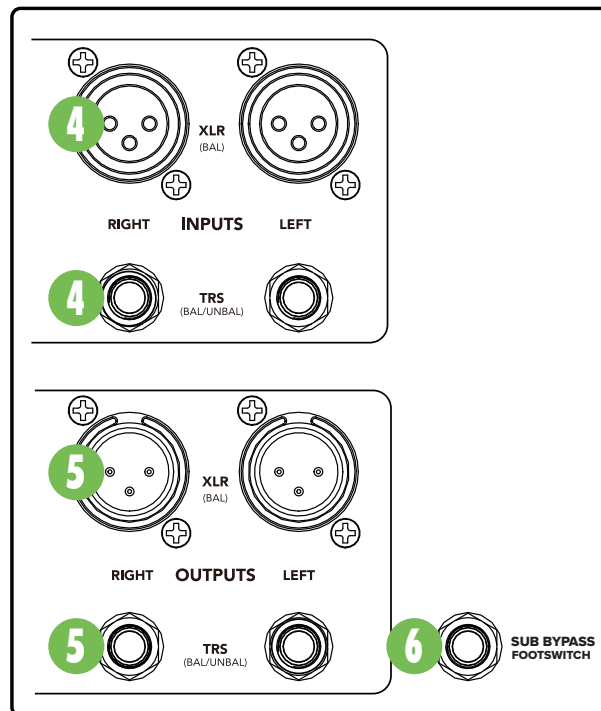
AC電源コードを接続する前に、お住まいの地域のAC電源電圧に合った位置にスイッチが設定されているのを確認してください。必要に応じて、小型のマイナスドライバーを使用しスイッチをスライドさせてください。

③ 電源スイッチ

このスイッチの左側を押すと、MRS10の電源が入ります。電源を入れる前に、必ずレベルコントロールを下げてください。コンセントに接続されている状態で電源スイッチをオンにすると、フロントパネルのLEDが緑に点灯し、使用する準備が整います。

このスイッチの右側を押すと、サブウーファーはスタンバイモードになります。

この状態では動作しませんが、内部の回路には通電されたままです。完全に電力を遮断するには、電源自体をオフにするか、電源コードをスピーカーまたはコンセントから抜いてください。



④ 信号入力

ミキサーやその他の信号ソースからのラインレベル信号は、これらの入力端子に接続します。左右それぞれに、バランス接続対応のXLR端子およびTRSフォン端子を備えています。

⑤ 信号出力

これらの出力端子からスタジオモニターの入力端子へ接続します。

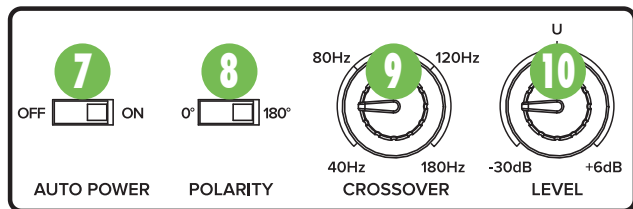
左右それぞれに、バランス接続に対応したXLR端子およびTRSフォン端子が用意されています。出力される周波数帯域は、クロスオーバーの設定位置によって決まります。

⑥ サブ・バイパス・フットスイッチ端子

このアンバランスTRSフォン端子には、付属のフットスイッチを接続します。

接続することで、サブウーファーのオンとオフを簡単に切り替えることができます。

フットスイッチがオフの状態（デフォルト）では、サブウーファーはスタジオモニターと同時に動作し、音を再生します。フットスイッチをオンにすると、サブウーファーはミュートされ、スタジオモニターのための再生に切り替わります。このとき、フロントパネルのLEDが点滅し、サブウーファーがオフの状態であることを示します。



⑦オートパワースイッチ

アンプを「自動オン/オフモード」にするか、「常時オン」にするかを切り替えるためのものです。ご自身の使用スタイルに合わせて、好みのモードに設定してください。

- スイッチを「ON」の位置にすると、入力信号の有無に応じてアンプの電源が自動でオン/オフされます。-55 dBu以上の入力信号があると自動的に電源がオンになり、約13分間無音状態が続くと自動的にオフになります。
- スイッチを「OFF」にすると、入力信号がなくてもアンプ（およびモニター）は常に電源オンの状態を保ちます。
- フロントパネルにあるLEDの点灯状態は、電源や信号の状況によって変化します。以下をご参照ください。

1. オートパワースイッチがオフ（左側）になっている場合、電源が入るとLEDは常時点灯します。
2. スイッチがオン（右側）になっている場合は、入力信号があるときだけLEDが点灯します。

また、サブ・バイパス・フットスイッチの状態も確認してください。フットスイッチが「オン」の状態になっていると、LEDは緑色でゆっくと点滅します。

⑧極性スイッチ

このスイッチを左にすると、サブウーファーには通常の極性（0°）で信号が送られます。

- ・スイッチを右にすると、信号の極性が180°反転します
- ・いずれも出力の音量や音質に影響するものではありません

どちらの設定が「正しい」といったことはなく、サブウーファーとメインスピーカーの位相関係によって音の聞こえ方が変わります。実際に切り替えて聴き比べ、より自然で一体感のある低音に感じられる方を選んでください。

※設置場所や部屋の環境によって、最適な設定は変わることがあります。実際に使用しながら調整してください。

⑨クロスオーバーレベル

サブウーファーがどの帯域から低音を担当するかを40Hz～180Hzの範囲で設定できます。

最初は、スタジオモニターの周波数特性（取扱説明書などを参考）に合わせた数値に設定し、そこから実際に再生音を聴きながらベストなポイントに調整してください。

⑩入力レベル

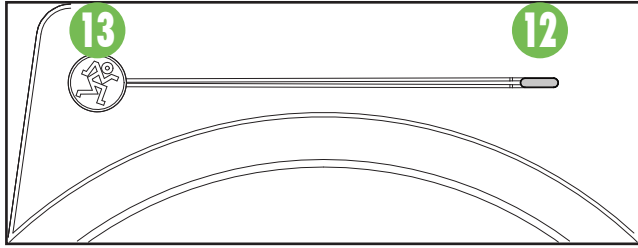
このノブでは、入力される信号の強さに応じてサブウーファーの感度を調整します（-30 dB～+6 dBの範囲）。

※低域が多すぎる、または少なすぎる場合は、この入力レベルと、クロスオーバー設定を組み合わせで調整してください。

⑪カスタムチューニング・リアシェルフポート

背面パネルの上部には、楕円形状のポート（開口部）が設けられています。これは、ウーファー背面から発せられる空気の流れを利用して、スピーカーの低域再生能力を高めるために設計されたものです。ポートのサイズは、キャビネットの容積やウーファーの特性に合わせて綿密に設計されており、自然で豊か、かつ迫力ある低音を生み出します。

フロントパネル



⑫フロントパネルLED

このLEDは、MRS10が通電しているのを示すものです。以下のいずれかの条件を満たすと緑色に点灯します

- オートパワースイッチがオフに設定されている場合
- オートパワースイッチがオンの状態で、-55 dBu以上の入力信号がある場合

また、サブ・バイパス・フットスイッチがオンになると、緑色の光がゆっくりと点滅します。これは、サブウーファーがオフになっており、スタジオモニターだけで音が再生されていることを示しています。

⑬ランニングマン・ロゴ

これはMackieのマスコットである「ランニングマン」ロゴマークです。Mackie製品やウェブサイト、取扱説明書など、随所に見られるブランドの象徴です。

保護回路

MRS10スタジオ・サブウーファーには、スピーカーおよびアンプを不意のダメージから守るため、いくつかの保護機構が搭載されています。



注意：保護回路は、常識的かつ適切な使用環境においてスピーカーを損傷から守るよう設計されています。

しかし、警告サイン（例：過度な歪み）を無視して長時間使用を続けた場合、過入力によりスピーカーユニットを損傷させる可能性があります。

このような使用による故障や損傷は保証の対象外となりますので、取り扱いには十分にご注意ください。

オーバーエクサクション保護

低域アンプの直前には、12 dB/オクターブのハイパスフィルターが搭載されており、極端に低い周波数が増幅されるのを防ぎます。

過剰な低周波エネルギーは、ウーファーが必要以上に大きく動作する原因となり、「ボトムアウト（振幅限界を超える状態）」を引き起こす可能性があります。これは「オーバーエクサクション」とも呼ばれ、機械的なクリッピングと同様のダメージをスピーカーに与える可能性があります。

サーマルプロテクション（過熱保護）

アンプは動作中に必ず熱を発生しますが、MRS10スタジオ・サブウーファーは、電気面、熱効率の両面で優れた設計が施されています。それでもヒートシンクが過剰に加熱された場合には、サーマルスイッチが作動し、アンプの電源が自動的にオフになります。

ヒートシンクが安全な温度まで下がると、スイッチがリセットされ、通常の動作が再開されます。その後、温度が再び上昇すると、同じようにシャットダウンが繰り返されます。このような状態が発生した場合は、キャビネット背面の通気が妨げられていないかを必ず確認してください。

マグネットシールドについて

MRS10スタジオ・サブウーファーには、大型の磁気構造を持つドライバーが搭載されていますが、これらのマグネットはシールドされていません。

そのためブラウン管ディスプレイの近くに設置すると、映像の形や色に影響を与える可能性があります。特に感度の高いPCモニターやテレビをお使いの場合は、スピーカーとの距離を数センチ離して設置することをおすすめします。

入力信号の配線について

MRS10スタジオ・サブウーファーに信号ソースを接続する際は、高品質なシールドケーブルをご使用ください。接続端子は2種類あり、さまざまな用途に対応します。

- XLR入力: バランスマイクケーブルが最適です
- 1/4"入力: バランスTRSケーブルが適しています

※ケーブルは、電源コードやコンセントから離して配線してください。これらに近づけるとハムノイズを発生させる原因になることがあります。とくにACアダプターや電源ユニットはノイズの発生源になりやすいため、注意が必要です。

※ホームシアター用機器などにおいて、ステレオレシーバーにプリアウトやラインレベル出力端子がない場合は、スピーカー出力から信号を取る必要が生じる場合があります。



注意: スピーカー出力をMRS10の入力端子に直接接続しないでください!

スピーカーレベルの信号はラインレベルよりはるかに高く、そのまま接続するとMRS10の入力回路を損傷させるおそれがあります。

ただし、レシーバーのスピーカー出力とMRS10の入力の間に「スピーカーレベル → ラインレベル」の信号アッテネーターを挿入すれば接続は可能になります。対応する製品は購入した販売店にお問い合わせください。

極性の「イン」と「アウト」について

MRS10スタジオ・サブウーファーには、ミキサーやその他の音源から受け取った信号に対して、出力極性を素早く反転できる「極性スイッチ」が搭載されています。

そもそも「極性を反転する」とはどういう意味でしょうか。

サブウーファーは、内部のウーファーコーンがキャビネットに対して前後に動くことで空気を物理的に押し出し、低音を再生しています。この動きは、音源から送られてくる信号の波形に応じて行われます。

たとえば、図1のようなサイン波を例にすると、波形が上昇する際にはウーファーコーンが前方に押し出され、波形が下降するとコーンはキャビネット内に引き込まれます。実際の音楽信号はもっと複雑ですが、基本的な原理は同じです。このコーンの動きによって空気が振動し、それを私たちは「音」として感じ取っています。

極性スイッチを右側にすると、入力された信号の波形が180°反転されます（図2参照）。つまり、本来前に動くはずのタイミングでウーファーコーンはキャビネット内に引き込まれ、逆に後ろに動くはずのタイミングで前に押し出される動作になります。

ただしサブウーファー単体で聴いているだけでは、極性スイッチを操作しても、音の変化があまり感じられない場合が

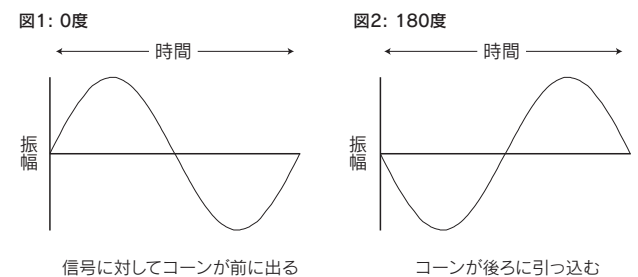
あります。これは正常で、私たちの耳は「前向き」も「逆の動き」も同じように「音」として認識してしまうためです。

しかし、MRS10をスタジオモニターと組み合わせて使用する場合は、この極性スイッチが重要な役割を果たします。

理想的には、サブウーファーとモニターのウーファーコーンが同じタイミング前後に動くのが望ましい状態です。両者が一体となって空気を押し出すことで、位相が合ったクリアな低域再生が実現されます。

MRS10はさまざまな用途や環境で使用されることを想定して設計されており、「極性スイッチ」を活用することで、使用環境に応じた最適なサウンドを得ることができます。

極性波形



トラブルシューティング

電源が入らない

- 電源コードが本体のソケットにしっかり差し込まれており、コンセントにも完全に差し込まれていることを確認してください。
- コンセントに電気が来ているのを確認してください（テスターやランプでチェックしてください）。
- リアパネルの電源スイッチはONになっているか確認してください。
- フロントパネルの電源LEDが点灯しているか確認してください。
- 点灯している場合は、24ページの「音が出ない」セクションを参照してください。
- 電源LEDが点灯しておらず、コンセントに問題がない場合は、ヒューズが切れている可能性があります。

音が出ない

- フロントパネルの電源LEDが点灯しているか確認してください。点灯していない場合は、「電源が入らない」を参照してください。
- 入力レベルコントロールが上がっているか確認してください。
- 信号元の音量は上がっていますか？ミキサーもしくは接続されているデバイスの音量が十分に上がっているか確認してください。
- ステレオペアとして使用している場合は、左右を入れ替えてください。たとえば、左出力に問題があると思われる場合は、サブウーファー側で左と右のケーブルを入れ替えてください。問題が反対側に移動した場合、サブウーファー自体の問題ではなく、ケーブル不良や、ミキサーが原因の可能性があります。

音が良くない

- 入力コネクタに1/4インチTSフォンもしくはTRSフォンを使っている場合、奥までしっかりと挿し込まれていることを確認してください。
- 音量が大きくて歪んでいる場合は、ソースの音量が適切なレベルに調整されているか確認してください。
- ヘッドホンを使用してプリアンプ段階の音源を確認してください。もしそこで音質に問題がある場合は、サブウーファー以外に原因がある可能性があります。
- 低域が出過ぎている、もしくは低域が足りないと感じる場合は、モニターの配置場所を変えて、低域のレスポンスが変化するか確認してください。
- 現在のリスニングポジションが、低域が強調されたり打ち消されたりする位置にある可能性があります。その場合は、サブウーファーの設置位置を変更するか、リスニングポジションを変えてみてください。

ノイズが出る

- ミキサーとモニタースピーカーの接続を確認してください。ケーブルが確実に接続されていないとノイズが発生する原因になる場合があります。
- システムにCATVケーブルが接続されている場合は一度取り外してください。これによりハムが消えた場合は、ケーブルテレビ会社に連絡し、ケーブルのアース接地状況の確認を依頼してください。
- 信号ケーブルを電源コードやACアダプターなどの電磁干渉を発生するものの近くに設置しないでください。ノイズの原因になる場合があります。
- サブウーファーと同じ電源回路に、照明用のディマーやSCRベースの機器を接続している場合は、AC電源フィルターを使うか、スピーカーを別の電源回路に接続してください。ディマーがバズノイズの原因となっている可能性があります。
- ヒスノイズが発生している場合、スピーカーへ入力される前のゲイン設定が適切に行われていない可能性があります。
- ヘッドホンで音を確認してください。そこでノイズが確認できた場合は、原因がモニターでは無い可能性が高いです。

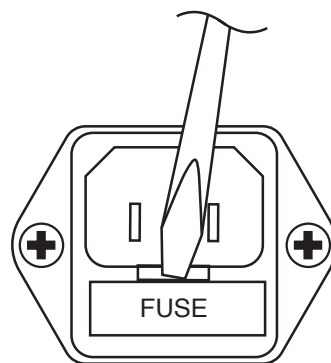
ヒューズの取り外しと交換方法

1. 本体のソケットから電源コードを外します。
2. 小型のドライバーを使用してヒューズカバーを引き出すように開けてください。カバーはスライドして取り出すことができます。
3. 装着されているヒューズを取り外し、同等タイプのヒューズに交換します。

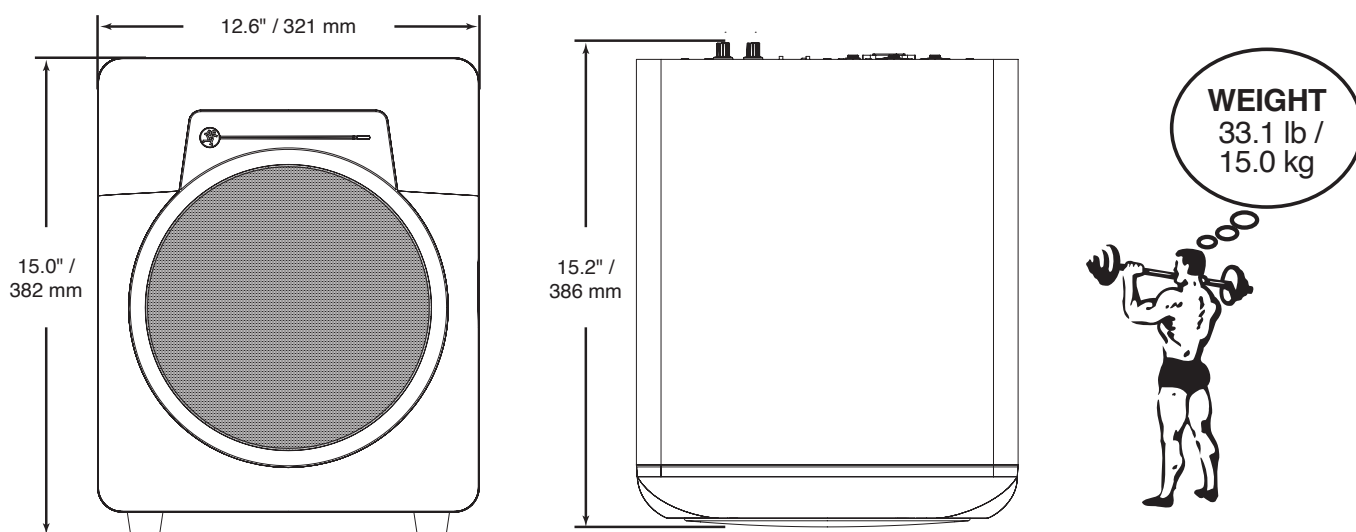
- 100-120V機種：T2.5AL 250V
- 220-240V機種：T1.25AL 250V

4. ヒューズカバーを押し込んで元の場所に戻します。

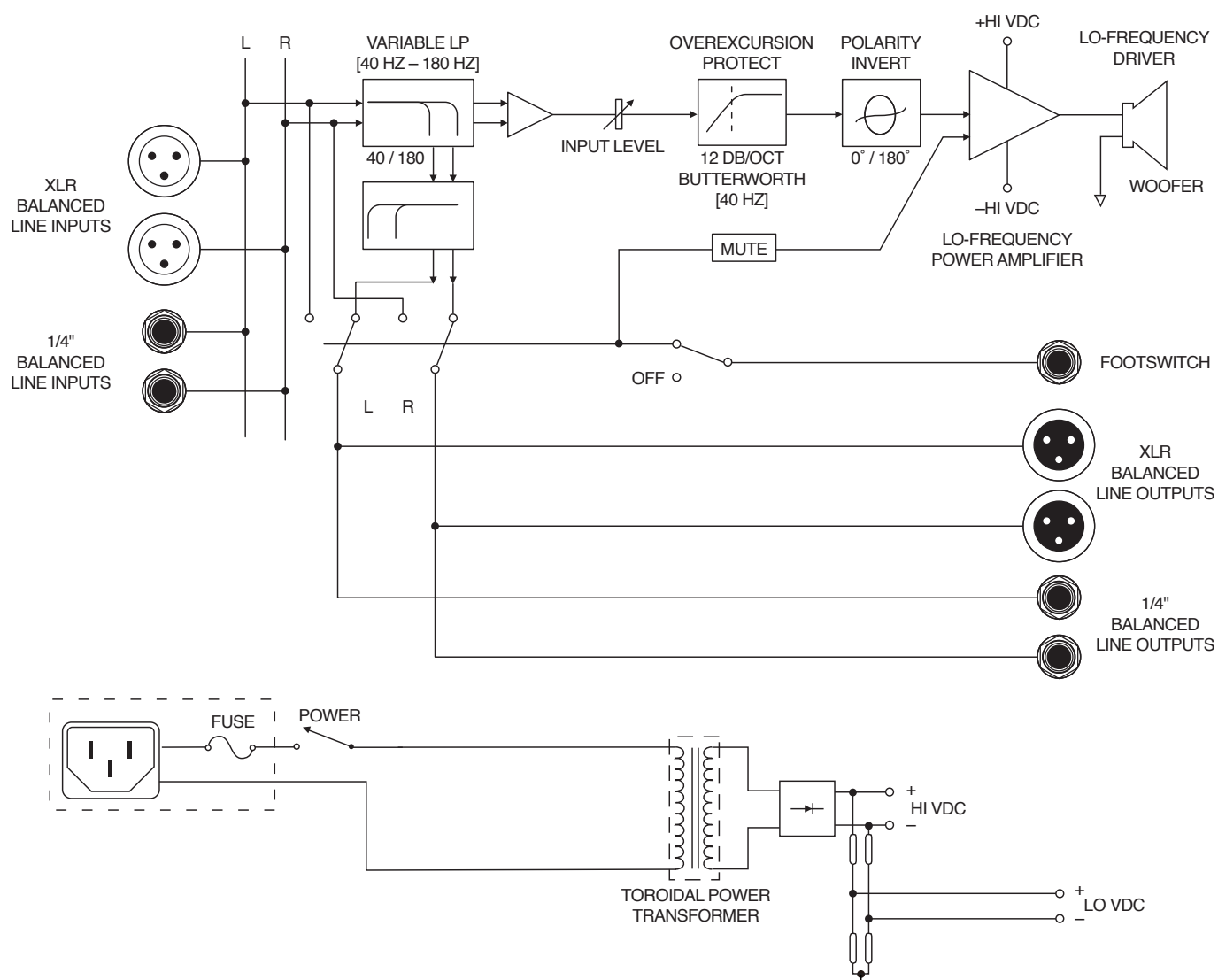
※ヒューズが連続して2回切れる場合は、重大な問題が発生している可能性があります。



寸法 / 質量



ブロックダイアグラム



仕様

音響性能

周波数範囲 (-3 dB):	35 Hz - 180 Hz
周波数範囲 (+10 dB):	28 Hz - 180 Hz
最大 SPL ピーク:	119 dB

トランスデューサー

低域:	10インチ / 254mm ウーファー
-----	---------------------

アンプ

低域アンプ:	120 ワット、4 Ω 負荷、 240 ワットピーク
型式:	モノリシック IC、DMOS パワーステージ付きクラス D

電子クロスオーバー

クロスオーバータイプ:	12 dB/オクターブ
クロスオーバー周波数:	40 Hz - 180 Hz [調整可能]

感度:	+4 dBu @ 65 Hz (フル出力時)
-----	------------------------

入力インピーダンス:	20 kΩ、バランス 10 kΩ、アンバランス
------------	----------------------------

電源:	AC 100 V ~ 120 V、50/60 Hz、250W AC 220 V ~ 240 V、50/60 Hz、250W
-----	--

ヒューズ:	100~120 V ユニット: T2.5AL 250V 220~240 V ユニット: T1.25AL 250V
-------	---

エンクロージャー材質:	15 mm 厚MDF (前面パネル33 mm 厚MDF)
ダンピング:	断熱吸音材

寸法 (高さ×幅×奥行): 382 × 321 × 386 mm

質量:	15.0 kg
-----	---------

